ぶらり日光 ブランド探訪 vol.10

くわしくは
総合政策課　日光ブランド戦略室　☎(21)5131

平家の落人が愛した湯と山河

今月の日光ブランドは「湯西川温泉」

湯西川温泉の発祥は天正元(1573)年で平家落人の子孫が発見したといわれており、400余年の歴史があります。泉質は、アルカリ性単純温泉で、無色透明、無味無臭で刺激が弱く肌にもやさしいので、病後回復期の療養や外傷後の療養に適します。

温泉地名の由来ともなった湯西川の渓谷沿いには旅館や民宿が立ち並び、温泉を楽しむのはもちろん、地元で採れたイワナやヤマメなどの川魚や鳥、サンショウウオ、味噌(みそ)べらなどを囲炉裏でじっくり焼いて食べる郷土料理が堪能できます。

温泉街の中心を流れる川沿いには古民家が建ち並び、忘れかけていた懐かしい日本の風景を思い出させてくれます。近くには共同浴場や露天風呂などもあり、湯西川温泉ならではの趣を感じることができます。

毎年1月末～3月上旬(今年は1月24日(土)～3月8日(日))は、湯西川温泉かまくら祭が開催されます。書籍「死ぬまでに行きたい！世界の絶景」で紹介されたり、日本夜景遺産の「歴史文化夜景遺産」に認定されていたりするイベントです。

日中は、メーン会場である沢口でソリ遊びや大人4人ほどが入れるかまくらの中でのバーベキュー(要予約)が楽しめます。

夜は、沢口河川敷ミニかまくら会場で、河川敷に並ぶミニかまくらのローソクに火が灯され、幻想的な光景が広がります(毎週木曜日は休み)。

また、スノーシューで美しい森や雪原を探索できる体験ツアーも開催されています。

ぜひ、皆さんも、日光の寒さと雪を思いっきり楽しんでみてください。

幻想的な「ミニかまくら会場」

進め！地域おこし協力隊 10

くわしくは
地域振興課　地域振興係　☎(21)5147

皆さんこんにちは。今月号では、平成26年12月15日から2日間にわたって栗山地域で行われた県地域おこし協力隊交流会について紹介します。

現在、県内では日光市の7名の協力隊員の他に、那須塩原市2名、那珂川町2名、益子町5名の協力隊員が活動を行っています。

協力隊員は、日々それぞれの地域で活動を行っていますが、自分の地域だけでなく、他の地域の活動状況について情報を共有しています。また、それぞれの考えや悩み事について意見交換することで、地域を超えた人脈や情報ネットワークが生まれます。

そこで、栗山地域の青山(あおやま)隊員と土屋(つちや)隊員が県内各地の協力隊員に声を掛け、栗山地域に県内の協力隊員が集い、交流会が実現しました。

交流会初日は、栗山地域での活動について事例発表を行い、集まった一人一人が自分の活動について報告し、意見や悩み事などについて多くの情報交換が行われました。そして2日目は、栗山地域の休耕畑でそばを栽培し、幻と呼ばれる栗山そばを復活させようと立ち上がった市民団体「栗そば会」のメンバーである地元住民の方の話を聞きました。会に携わったきっかけや、協力隊員との関わりなどについて話してもらい、時間をかけて小さなことを積み重ねていくことによって地域住民の方との信頼関係を築いていくことの重要性を再確認することができました。

今回の交流会は、普段なかなか話せない本音をお互いにぶつけることができ、非常に有意義な場になったと思います。

これからも地域や市や町を超えた交流の場を大切にしていきたいと思います。

県地域おこし協力隊交流会

小杉放菴記念日光美術館

〒321-1431 日光市山内2388-3　TEL：50-1200
ホームページ　http://www.khmoan.jp/

市民割引券

（1枚につき、5名様まで有効）
開館時間：午前9時30分～午後5時
休館日：毎週月曜日（祝日などの場合は翌日）

KOSUGI HOAN MUSEUM OF ART, NIKKO

切り取ってご利用ください

selection(セレクション)2015　新春－清水比庵＋小杉放菴

現在、美術館は、清水比庵(1883～1974)と小杉放菴の作品を併せて紹介する展覧会を開催しています。

清水比庵は、日光町時代の第14代町長を務めた後、小杉放菴とともに、旧・日光市において最初の名誉市民となりました。町長在任中は、現在につながる観光行政の基礎を築き上げています。

また、歌人としても知られ、書と画にも非凡な才能を発揮し、芸術家としても活躍しました。

放菴は、比庵が主宰する歌誌「二荒」の表紙絵を描くなど、親交を結んでいます。

今年は、比庵の没後30年を迎えることから、自作の歌と書と画が三位一体となった、楽しく優しい世界を、放菴の作品とともにお楽しみください。

清水比庵作「彩果」

会　　期：2月15日(日)まで
会館時間：午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)
入館料：一般720(300)円、大学生510(200)円、
高校生以下は無料
※(　)内は市民割引券を利用した際の料金です。

連載　世界遺産日光の社寺

教育委員会事務局　文化財課
日光市中央町15-4　☎(30)-8601

◆鎮護国家

鎮護国家とは、仏教の力によって国を治める政策です。その最も象徴的なのは天平13(741)年の聖武天皇による「国分寺建立の詔」です。これにより下野国にも僧寺と尼寺が建立されました。8世紀後半から9世紀前半代にかけて主要な建物が整備され、最も充実していた時期であったということが、下野市などによる発掘調査で解っています。

これは勝道上人が活躍した時代と重なります。男体山登頂を果たした勝道上人が中禅寺湖周辺を修行場として整備し、二荒山神社中宮祠や中禅寺を整備したのは、延暦3(784)年のことです。

その後、弘仁8(817)年に亡くなりますが、これらは単に一修行者としての業績ではなく、鎮護国家という政策が背景にあったことを意味します。登頂に至る15年の歳月は、山で生活を営む人々との調整と布教に要した時間だったと考えられるからです。

◆日光三社権現

二荒山が男体山と呼ばれるようになるのは平安時代になってからのことです。「男体」と呼ぶからには、当然相方となる「女体」が必要で日光では男体山と女峰山が信仰の対象となりました。

鎌倉時代になると日光山を統括する弁覚という僧が、当時最先端であった熊野へ修行に向かいます。熊野は本宮、速玉、那智の3つの神社が信仰され、これに強い影響を受けた弁覚は日光にもこの考えを導入します。男体、女峰の夫婦に息子の太郎を加えた3神と3仏に整理し日光三社権現としました。

これが、山内の三社と三仏堂の始まりで、現在に至ります。

日光三社権現の関係

山	神社	主祭神	本尊
男体山	新宮(二荒山神社)	大己貴命(おおなむちのみこと)	千手観音(せんじゅかんのん)
女峰山	瀧尾神社	田心姫命(たごりひめのみこと)	阿弥陀如来(あみだにょらい)
太郎山	本宮神社	味耜高彦根命(あじすきたかひこねのみこと)	馬頭観音(ばとうかんのん)